

【統計入門】京都市の人口は？～人口の種類

京都市の人口は何人でしょう？これを調べようと、[ホームページ「京都市の統計情報」](#)を見てみると……「人口統計」として、「推計人口」、「住民基本台帳人口」、「外国人登録人口」の3種類が載っています。これらは、どう違うのでしょうか？そして、どれが正しい数値なのでしょう？

○人口は、集計対象によって変わる

実は、これらは、それぞれ集計の対象が違うのです。したがって、「どれが正しい」「どれが間違っている」というものではありません。ひとつひとつ御説明していきましょう。

推計人口	<p>市内に実際に住んでいると考えられる人の数です。5年に1度実施される「国勢調査」の結果を基に、毎月1回、住民基本台帳及び外国人登録の増減数を加減して計算しています（したがって、国勢調査時の人口は「推計値」ではなく、調査結果そのままの「実数値」です。）。</p> <p>（注）「国勢調査」とは？</p> <p>国の最も重要かつ基本的な統計調査（全数調査）で、日本に居住しているすべての人及び世帯を対象として実施されます（外交官等、一部例外があります。）。大正9（1920）年以來ほぼ5年ごとに行われており、最近では、平成22（2010）年に実施されました。</p>
住民基本台帳人口	<p>市内に住民票を置く日本人を対象にした記録です（住民基本台帳法により、外国籍の方は対象外となっており、住民票は作成されません。）。住民基本台帳とは、住民票を世帯ごとに編成して作成したものです。</p>
外国人登録人口	<p>市内で外国人登録を行った住民を対象にした記録です。外国籍の方（無国籍者を含む）には住民票がありませんが、本人の申請により外国人登録原票が作成され、現住所の証明等に利用されます。日本に連続90日を超えて滞在しようとする方には、外交官などの例外を除き、必ず登録する義務があります。</p>

……ごく簡単な説明ですが、違いがお分かりいただけたでしょうか。

なお、今後は、外国籍の方についても、住民票と住民基本台帳が作成されることになっています（改正された住民基本台帳法が、平成24（2012）年7月頃に施行される予定です。）。

○では、一般的に「人口」といえば？

では、それぞれの人口はリンクしているのでしょうか。試しに、少し古い数値ですが、平成17（2005）年10月1日現在（国勢調査時）の、各人口を見てみましょう。

国勢調査人口（確定値）	1,474,811人
住民基本台帳人口と外国人登録人口の合計	1,437,560人
（住民基本台帳人口	1,395,212人）
（外国人登録人口	42,348人）

御覧のとおり、数値は一致しません。この差に当たる方をすべて把握できているわけではないのですが、一例として、住民基本台帳は自宅にあっても、国勢調査では病院の所在地でカウントされる長期入院患者が挙げられます。住民基本台帳人口や外国人登録人口は、「実際に住んでいる人数」ではなく、「居住者として登録されている人数」です。一方、国勢調査は、「実際に、そこに住んでいる人」を対象にしています（先程の例のように、入院患者を「住んでいる人」と呼ぶのには違和感があるかもしれませんが、「調査の時点で、調査した場所にいた人」と理解してください。）。このことから、一般的に「人口」といえば、より居住実態に近い数値である「国勢調査人口」と、それを基にした「推計人口」を指すのです。

○地域ごとの集計について

ところで、人口は、市全体だけでなく、行政区等といった地域ごとでも集計しているのですが、その中に、「国勢統計区」「元学区」という集計単位があります。あまり見慣れない言葉だと思いますが、どのような地域を指しているのでしょうか。これら「地域の種類」については、次号で御説明したいと思います。